

大栄ホームの快適住宅宣言

大栄ホームの社長の木川です。
本日は私の家づくりを話します。

家づくりの変化

今、家づくりに大きな変化が起きています。
コロナ渦により不要な外出が制限される中、除菌・抗菌・空気清浄の話が当然のようにでます。
そのための手洗いが玄関に欲しいなどの要望もより多数になりました。
お客様には、本当にそこに必要なのか・どう使うのか・見栄えは・費用はと
その必要性を確認しつつ対応させていただいております。
この件に関しては必要の賛否、意見の分かれるところでしょうか。
インターネット・SNSから非常に多くの情報が簡単に得られ、いい時代になりました。
ただ情報過多で正しい情報か否か、必要であるかどうかすら疑わしく
いいことであるだろうが、むやみにハイスペックだったり本当は必要なかったり。
実際、私がお金をつぎ込んでその結果本当に価値があることだろうか。
だから我が家を本気で作るのならば、そばに迷いを解決する専門家がきっと必要ですね。

本当に欲しいものは 器ではなくその中身

家に戻ると家族との団らんが待っている、それは当たり前誰もが望む未来。

皆が健康で心やすらかに暮らせ、また長生きできる家。

昨今はただ長生きできる年齢ではなくて健康寿命(健康に過ごせている時間)ですね。

また気持ちいいデザインも、安心して暮らせることも健康の要素の一つでしょう。

そんな環境にこそ、その幸せのポイントがあるはずですよ。

だからそのポイントを私は提案したいですね。

相対的貧困(比べて体験してみたら今の家は残念な家だった)

新聞に【相対的貧困】という言葉を見てからずっと心に引っかかってました。

私の仕事で比べてみたら貧困だったことなんていくらでもあるけど、

きっとそんなことではないはず。

先日お客様に弊社モデルハウスに来場いただき、そのあたたかさを体験いただいたところ

非常に喜んでいただきリフォーム計画が一転、新築に変更になりました。

冬なのに床板が冷たくない、外部側向いたからだの半分側も寒くないと。

これは極端な例かもしれませんが。でも実際現在のすまいに慣れた状態では以外に

その状態に不自然を感じず、いくら説明してもその差がわからない。

あったかいですよ！といってもその程度が想像つかず、胸に落ちないのです。

貧困はきっといい過ぎなのですが、

実際のその暖かさにおいては相当に貧困だったわけです。

その状態になれているため、いくら説明してもその良さがわからない。

必要な要素を備えた住宅であれば、すぐにも手に入るところにあるはずです。

このことに気づいたお客様はきっと快適な住まいを手に入れることでしょう。

今のすまいの延長線とは違うところに、新しいすまい方はあるのかもしれません。

ちなみに弊社は床暖房はほとんどありません。

エアコン暖房で充分快適に過ごされております。

だから 快適住宅 宣言

弊社はモデルハウスにおいて、各室の温度測定を行いそのデータに基づき費用対効果が上がるように断熱方式、空調計画を行っています。

そのうえで新潟に適した快適な性能提案を進めております。

暑さ寒さはほどほどに家中温度差が少なく、またイニシャルコスト、ランニングコストもおさえながらさらにおしゃれなすまいに住みたい。

こんなお客様の、

夢のすまいつくりのお話(スマイルストーリー)のお手伝いをさせていただけると幸いです。

私の求める住宅、それが【快適住宅】です。

ここに私はお客様の求める 快適住宅を提供することを宣言いたします。

令和4年 1月

代表取締役 木川省一